試みの地平線

北方謙三

試みの地平線

北方謙三

試みの地平線

一九八六年十一月一日　第一刷発行

著者——北方謙三

定価——一〇〇〇円

© KENZO KITAKATA　1988 Printed in Japan

発行者——加藤勝久

発行所——株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目十二—二十一　郵便番号112—01

電話03—945—1111

印刷所——凸版印刷株式会社

製本所——株式会社光洋製本所

落丁本・乱丁本は、ご面倒ですが、小社雑誌業務部宛にお送り下さい。送料小社負担にてお取り替えいたします。

ISBN4-06-172329-4 (O) (HD)

ピーターパンの冒険

矢吹透　定価一〇〇〇円　講談社

悩み・焦り・怒り・とまどい……若者の〝今の気分〟を22歳の著者が優しく語りかける！
そっと彼女に贈るエッセイ集。

快楽のテニス講座

村上龍　定価二〇〇円　講談社

ポリシーのある美しいテニスを追求する村上龍が、基本テクニック、実戦テクニック、そしてトッププロのテクニックを類まれなる表現で解説する画期的なテニス技術エッセイ！

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

Ryu's Bar

気ままにいい夜

村上龍 & Ryu's Barスタッフ　**定価一〇〇〇円**　**講談社**

日曜夜にオンエアされたお洒落なトーク番組をプレイバック。井上陽水、江夏豊、坂本龍一、坂東玉三郎、林真理子、やまもと寛斎、etc、バラエティに富んだ世界の素敵なゲストとホスト村上龍、ホステス岡部まりとの楽しい対談集。

目

次

第一章　どうやってプライドを守っていくべきか？

男のプライドなんて、ちょっと位置が変わるだけで曇りがかかり、プライドではなくなる。見栄になったりする。ようは、廉恥心、恥じる心を持てるかどうか、である。……5

第二章　学校が、教師が、許せない！

もし本気で闘おうというのなら、負けを覚悟の上でやれ。男が闘うと決めた瞬間に、絶えず負けというのは背中に貼りついているのだ。……51

第三章　クラスの連中にいじめられてます。

男は誰でも弱さを持っている。その弱さをどれだけ自覚するか。弱さを自覚し、強くなろうと望む時、もしかしたら男は強くなり得るんではないだろうか。……79

第四章　どうしたら女にもてるか？

男が自分の獣性を剥き出した時に、女は男というものを感じる。女の男に対する認識の仕方は動物的なのだ。雄として認識するか、しないか。それが第一だと思うな。……119

第五章　じつはボク、変態なんです。

ＳＭの道に足を踏み入れたなら、道を極めよ。俺みたいな凡庸な人間と違って、非凡なんだと思え。変態であることに悩む必要はないのである。……225

第六章　男の酒の飲み方を教えて欲しい。

今、いちばん旨いと思うのは、ハバナ産の葉巻。極上のを食後にふかす。その時にはコニャックを飲みたい。これが俺の愉しみであり、男の最高の贅沢だと思うな。……273

第七章　こだわりとは最高の言い訳では？

俺は男だ、ということに、俺はこだわろうとしている。できるだけ自分が男であることにこだわろうとしている。その男とは何か？
これは説明のしようがない。俺が男だと思っている男だ。……299

あとがき……314

装丁　成田郁弘
写真　久間昌史

第一章

どうやってプライドを守っていくべきか？

男のプライドなんて、ちょっと位置が変わるだけで曇りがかかり、プライドではなくなる。見栄になったりする。ようは、廉恥心、恥じる心を持てるかどうか、である。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

先生の人生観を聞かせてください。

6

高校を出て大学へ行って、卒業してサラリーマンになって、60歳で定年。先生、大学っていったい何なのでしょうか？　このようなルートに乗るためのパスポートなのでしょうか？　私は高校に入学して以来、愚かな事に、学校の勉強さえそっちのけで、この問題を考えましたが、今ひとつ自分の答えに納得できません。それと先生、人生ってのは平凡

こういう悩みはあって当然だが、あまりに不毛である。人生というのはつまらないことがいっぱいあって、そのひとつひとつの意味を考えたら、まったく**不毛**にすぎないのだ。

たとえば今日のことを考えてみる。俺は昼に起きた。めしを食ってたら、小さい娘がなにか悪いことをした。で、怒ったら娘がワッと泣いた。うるさい！　と言って、ボソボソやってるうちに、**ホットドッグ・プレス**の取材が来た。そして、利いた風なことを言って……。こう分析していったら、たいしておもしろい一日じゃない。どこに価値があるのかも、わからない。

ところが人生というのは、一日じゃないんだよ。こうした一日を積み重ねていくのが人生なのだ。一日、一日はつまらないかもしれないが、その積み重なった一生というのには、

なのが一番なのでしょうか？　先生の人生観を是非、お聞かせください。

（山口県　Y・K　高校1年）

たいへんな価値があるのかもしれない。価値がなかったら生きてる意味がないわけだから、価値はどこかにあるはずだ。そうやって一日、一日を積み重ねていくのが人生なんだというのが、俺の人生観だね。

どんなに考えたって、不毛という結論しか出てこないんだから、とにかく何か**やってみろ。**やる前に何も考えるなよ。どうしても考えたいなら、やりながら考えろ。何もやってみないうちに考えて、何がわかるというのか。六十歳定年の人が、いつもわびしいと思ってるかどうかなんて、君が考えたってわからないことなんだから。もしかしたら、充実感を持ってるかもしれないだろ。

やる前というのは観念にすぎない。実際の行為に裏づけられて、初めてその人間にとっての思想とよんでいいようなものになるだろうと思う。君の言い方でいえば、人生観ということになる。恋愛でも人生でも、やってみないとわからないのだ。いいかげんに考えるのはやめたまえ。

男のやさしさとはどういうことか？

8

マーロウが言った言葉「男はタフでなくては生きていけない。やさしくなければ生きていく資格がない」——この台詞が好きなのですが、先生は男の優しさとはどんなものとお考えですか。お聞かせ下さい。ただ優しい男ならどこにでもいるように思うのですが、この台詞の持つ優しさとは違うように思うのです。

（京都府　S・K　20歳）

男のやさしさを、女にドアを開けてやるとか、コートを着せてやるとかと思っちゃいけない。男の優しさとは、**自分のルール**を押し通そうとして他人を傷つけた時、自分が傷つけた以上に自分で傷ついたかどうかにある。

生身の人間同士だから、他人とぶつかればどこか傷つくわけだ。相手の価値観とかプライドとかをどうしたって傷つけてしまう。その時、自分がそれ以上に傷つけるか、心にスパッと傷口が開いている状態にどこまで耐えていられるか。そこで男のやさしさが決まる。

「男はタフでなければ生きていけない」というのはまさしく、そうやってズタズタになっても生きていけるタフさを指すのであり、「やさしくなければ生きる資格がない」というのは、人を傷つけた時に自分も**傷つく心**を持っていないといけないといっていると思う。ハードボイルドを表現する意味で、自分の中にしまい込む言葉として、噛みしめれ

ば噛みしめるほど味のある言葉にちがいない。

ま、しかし、そうしたハードボイルドでいうやさしさを持った男なんて、小説の中にしかいないのかもしれないな。ただし、そういう男であろうといつも願っている男は現実にいるはずで、そういう男になろうぜ。表面的なやさしさは、女を落とす時のテクニックにすぎないことを忘れずに、**心の中の傷**を隠して生きていく男だけが、いい女にめぐり逢えるのだと、俺は断言するぜ。

どうやってプライドを守っていくべきか？

10

俺は小さいけど男としての誇りをもっている。小さい頃からケンカはしかけないけど、プライドを傷つけた奴らには、たとえどんな大きくて強い相手にでも突進していった。いつもやられていた。友人がいじめられたら、助けてやろうと突進していった。でもやられた。ある時、リンチをうけた。それ以来、群れをつくらなくなり、いつも独りで行動する

プライドを傷つけた奴には立ち向かうべきかどうか、これをいつも思い悩むのだ。思い悩んでも立ち向かえない時がある。立ち向かって**尻尾を巻く**こともあるし、やられることもあるし、勝つこともある。どれがいいとはいえないが、男は誰でも立ち向かおうとして苦しむものだ。

男のプライドなんて、ちょっと位置が変わるだけで曇りがかかり、プライドでなくなる。**見栄**になったりする。それを拒否して、自分のプライドにこだわり、それを傷つけた奴とはぜったいに戦うというルールを持つ。それはいいことだが、そのルールを破ってしまった時、つまり戦えなかった時に、自分を**恥じる**という気持ちを持つことも、ルールを守るのと同じように大事なことだと思うな。だから、プライドにこだわらずに生きていくべきかどうか、なんてことは考えるのはよせよ。

ようになった。人とかかわるのがいやになった。最近、これではダメだと思った。何のとりえもない俺のたったひとつだったとりえをとりかえそうと思う。昔の自分に戻ろうと努力してはいるけど……。北方さん、たとえやられてもプライドを傷つけた奴には立ち向かって行くべきなのでしょうか。それともプライドなんかにこだわらないで生きていくべきか、教えてください。

（千葉県　かっこよく生きたかった男）

また、こういうこともいえる。つまり、人間というのは、どこかに昔の自分を残しているものなのだ。そして、人間の心の中には**いろんな顔**があるのだ。たまたま出ている顔が厭でしかたがない、それでもその顔しか出すことができないという時も人間にはあって、それが生きる上での悲しさだとわかったりするのは、俺ぐらいの齢になってからのこと。まだ十代や二十代の時は、卑怯な顔を他人に晒したら、それをどのくらい恥じるか、が問題となるのだ。**廉恥心**のようなものを持てるかどうか、なのだ。

安心していい。廉恥心を持っていれば、昔の自分はいくらでも取り戻せるよ。俺のように四十歳にもなれば、十五歳の時に抱いていた夢とか、純粋さを取り戻そうとか、あるいは本当に男らしかった瞬間というのがあって、その瞬間をもう一度、取り戻したいと思っても、できないのだよ。

君はまだ若い。若い時にはいろいろなものを喪くしたり取り戻したりしながら、自分のものにしていくことが可能だ。たった一度喪くしたからといって、諦めるな。まったく喪ってしまったと考えるな。自分にはかつて、こういう顔が確かにあったのだということを誇りにすれば、すぐに取り戻すことはできる。**勝負は長い。**ころげまわって悩み、考えるのも悪くないぜ。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo